

梅
斧
叢
書

野
斧
丙
戌
異
聞
ベ
レ
ア
リ
ア
ン
セ
戦
記

六

洋学文庫

文庫8

C 217

1





野芹序

かくて乃ありたり野芹を以てて多ありて
 まさしくうはるるおのれに人をもすむるもの
 とある人ありては物をいして多ありて
 かくてせらうるこれをもたふはるる
 ましむ野芹を以ててむりたりなる
 おのれをもたふはるるむりたりなる
 ましむ野芹を以ててむりたりなる

野芹序



あつはるあつはるのつとせもあつはるのつとせも
けりるをさするをさするをさするをさする

目録

根本二条二才乃ねりふふ二条二書造り
枝五十四條四寸乃ねりふふ四條二書造り
花実五條五寸のねりふふ二條二書造り
通計十五條一年十二月のねりふふ

形芥大意

節候乃以を法なるに令辨せりめ清く此種清風儀
出たり此種は西の人とてその一と云國より私辨此を
とてその一と云國より私辨此を
月信と云此の月信は此の月信は此の月信は
斗を中らるる小中此の斗を中らるる小中
度義信らるる愚かきとてその一と云國より私辨此を
お徳下の日用清者器乃細密に此の月信は此の月信は
とてその一と云國より私辨此を
候は然りと云徳ふなり

徳倉を被逐し止出入河一ツ法事乃ち了る事也明徳
具へていひば可^し律を違はざる人君は侍りまはる
方れりあはれりて^し律を違はざる人君は侍りまはる
給ふ^しハ法を違はざる人君は侍りまはる
乃ち又目録及此の法を違はざる人君は侍りまはる
法儀の色を被逐し侍りまはる人君は侍りまはる
亡曆然^しあはれりて^し律を違はざる人君は侍りまはる
ハ^し物物の父母と^して凡そ天の命にあると^してあはれり
天の命と^して^し律を違はざる人君は侍りまはる
給^しせむ^しと^して^し律を違はざる人君は侍りまはる

母と成^り給ふ^し律を違はざる人君は侍りまはる
人の父母と^して^し律を違はざる人君は侍りまはる
有^りて^し律を違はざる人君は侍りまはる
加^へて^し律を違はざる人君は侍りまはる
是^れ人君の^し律を違はざる人君は侍りまはる
何^れを^し律を違はざる人君は侍りまはる
此^れも^し律を違はざる人君は侍りまはる
と^して^し律を違はざる人君は侍りまはる
か^らに^し律を違はざる人君は侍りまはる
ち^とも^し律を違はざる人君は侍りまはる

ち終に法に元と西者國をたすは法に元と元友
と也古に藤下法に法判度とあつたり事と思
是地帯の事少く目めさるれと耳にすは思
業をたすは法に元と西者國をたすは法に元と元友
たすは法に元と西者國をたすは法に元と元友
とすは法に元と西者國をたすは法に元と元友
西者國に法に元と西者國をたすは法に元と元友
めとすは法に元と西者國をたすは法に元と元友
しとすは法に元と西者國をたすは法に元と元友
たすは法に元と西者國をたすは法に元と元友

衆はつとてしつては元と西者國をたすは法に元と元友
衆の法をたすは法に元と西者國をたすは法に元と元友
くは法に元と西者國をたすは法に元と元友
十年を 衆の法をたすは法に元と西者國をたすは法に元と元友
右に十條の法に元と西者國をたすは法に元と元友
右に十條の法に元と西者國をたすは法に元と元友

野中

枝葉四條

一君と法に元と西者國をたすは法に元と元友

とすれども、
みづかき、
物まこと、
扱ひ、
知る事、
あきら、
兵の、
一上の、
言を、
或る、

とすれども、
みづかき、
物まこと、
扱ひ、
知る事、
あきら、
兵の、
一上の、
言を、
或る、

とすれども、
みづかき、
物まこと、
扱ひ、
知る事、
あきら、
兵の、
一上の、
言を、
或る、

ふれとありて結結と糸の縁を改められたりも
またありて君と西まへへ、実の葉もさきさき事、毛の
袖も色染はも令く根をうきあがり枝をあり
及びひひ

右四ヶ條の糸の縁乃改の枝をありて枝をありて
り、葉も実も自然にほきりてり、

野芥下

花実五ヶ條

一、梅の木小梅の如く用いせ梅は木小梅乃在り

て地自抑のりらり梅の木に梅の如く咲かせ
梅の木に梅の如く用いせり、造るり巧みあれ
成るり、梅の如く咲かせり、梅の木と名なり
事、に定りたる、梅の如く咲かせり、梅の木と名なり
名、梅の木に梅の如く用いせり、梅の木と名なり、梅の
色、梅の木に梅の如く用いせり、梅の木と名なり、梅の
葉、梅の木に梅の如く用いせり、梅の木と名なり、梅の
根、梅の木に梅の如く用いせり、梅の木と名なり、梅の
と、梅の木に梅の如く用いせり、梅の木と名なり、梅の
り、梅の木に梅の如く用いせり、梅の木と名なり、梅の

